

令和3年度第2回袖ヶ浦市郷土博物館協議会

1 開催日時 令和3年11月17日（水） 午前10時00分開会

2 開催場所 郷土博物館 研修室

3 出席委員

委員長	伊藤 誠	委 員	加藤 みどり
副委員長	武田 弘	委 員	菊池 眞太郎
委 員	前沢 幸雄	委 員	篠原 美智代
委 員	高橋 佳代子	委 員	唐木 義昭
委 員	友田 賢司		

(欠席委員)

委 員	岩崎 照代		
-----	-------	--	--

4 出席職員

教育長	御園 朋夫	館 長	西原 崇浩
生涯学習課長	高浦 正充	主 幹	桐村 久美子
顧 問	井口 崇	主任主事	水流 拓馬

5 傍聴定員と傍聴人数

傍聴定員	5 人
傍聴人数	0 人

6 議題

- (1) 「郷土博物館の使命－そではく30の展望－」の見直しについて
- (2) その他

7 協議事項

- (1) アクアラインなるほど館の今後の活用について

(2) その他

8 報告

- (1) 上総掘り講座の現状について
- (2) 郷土博物館の上半期の活動報告について
- (3) そではく体験会の報告について

9 議事

伊藤委員長 議題(1)「郷土博物館の使命—そではく30の展望—」の見直しについて事務局から説明をお願いいたします。

事務局 資料に基づき説明

伊藤委員長 議題(1)「郷土博物館の使命—そではく30の展望—」の見直しについて何か質問ありませんか。

唐木委員 資料として配布していただきましたが、睦沢町立歴史民俗資料館で開催された展覧会の記事がシティライフに載っていて、早速見に行きました。発掘された零戦の展示です。戦争で亡くなった方の手紙なども展示されていました。この展示開催にはかなりの人の協力があったということです。1つの企画展を作るのにはとても大変な労力が必要だということがわかりました。まさに活動目標の(6)です。埋もれている歴史を掘り起こす、調査研究の成果を公開することは、袖ヶ浦市郷土博物館では、袖ヶ浦市史研究がこれにあたるかと思いますが、研究者との協力などはどうなっていますか。

もう1点、旧進藤家住宅について記載がないようですが、先日、旧進藤家住宅で盆栽展が開催され、建物の中に盆栽を飾るという素晴らしい展示でした。四季折々に、進藤家にもっと脚光を浴びさせてほしいというのが私の願いです。

西原館長 2つめの旧進藤家住宅について記載がないというお話についてですが、今回、郷土博物館全体の運営についての4つの使命を達成するための活動目標を7つ設定させていただきました。博物館の中には万葉植物園もある、なる

ほど館もある、常設展示等もありますが、あるべき姿という個別目標の方にはあえて出さなかったということです。個別の施設については、その中でもう一段階細かい、数値的に評価していく部分である、個別の取り組みの中で扱っていこうと思っております。

伊藤委員長 ひな祭りは、旧進藤家でやっていますけれども、あれは結構人が来てくれていますよね。

西原館長 特に旧進藤家につきましては、これまで何回か協議会の中でも活用案と言うことで、ご意見いただいております。またさらに新たな活用案として、万葉植物園についても、普段市民学芸員の方に手入れしていただいておりますが、もう少し進んだ活用案を考えております。そういった中でこれらの施設については、数値的な目標を掲げて、という評価でこの先対応していきます。

事務局 調査研究についてですが、上総掘りとか山野貝塚についてとか、毎年のテーマを決めてあるのですけれど、企画展・特別展を開催していくうえでも、調査研究がベースになっております。唐木委員からも睦沢の例がありましたが、事業1つするために大変な調査研究の積み重ねがあるわけです。また別の調査報告の成果の形態として、『袖ヶ浦市史研究』という冊子を刊行しております。現状では2年に1度、隔年で刊行しております。教育普及事業につきましても、調査研究というものがベースになっておりませんと、博物館の事業として成立しませんし、すべての博物館事業について、調査研究というものがベースになっているということをご理解いただければと思います。

西原館長 人的なことも質問にあったかと思いますが、企画展の準備でも協力者を仰いで深く掘り起こしていく、睦沢の方は市民との協働で事業を行ったということが重要であったかと思うのですが、当館の方では市民学芸員という人たちがおりまして、市民学芸員と協力してやっていくのが、そではくの方やり方かなと思っています。来年の話ですが、開館40周年になりまして、市民学芸員と一緒にやって行こうということで、市民学芸員の方の足を使った調査とかで協力いただいております。

伊藤委員長 その他ありますか。

菊池委員 新しく35の方向性を提案していただきましたが、その中で少し気になるのが、活動目標（5）のところ、安心・安全な施設の所で、バリアフリー、ユニバーサルデザインとか、変更案の方ではその辺の言葉が濁されていますが、これはハードな部分なので予算的なところもあるかと思うので、なかなか難しいかとは思いますが、そういった具体的なところは、ここでは表さないようにするのですか。

西原館長 そうですね。おっしゃる通り、言葉がそっくり抜けてしまっているのはやはり予算的なところが大きいです。これを作った当時、ちょうどユニバーサルデザインという言葉も出始めていて、それを取り入れた博物館像というのがよいだろうと、そういったことでこの段階では入れさせていただいたものです。郷土博物館は老朽化も進み、そういった点でも図っていかなければならないのですが、あるべき姿という所でユニバーサルデザインをあえて入れることによって、なかなか達成できないことが明白なこともあります。個別の安心・安全を守っていくといったところで、ユニバーサルデザインとかバリアフリーといった言葉はあえて出しませんけれども、活動目標（5）－1の「管理施設の現状が把握されていて、計画的なメンテナンス、修繕、改修等の計画が立てられて、施設の維持管理がはかられている」で、やれる範囲の修理・改修を明記しているかというところです。

菊池委員 博物館だけで出していると、なかなか予算に乗らないような気がしているのですけれど、1つ1つの取り組みについて、市の中での順番と言うか、位置づけみたいなものが、あるとやりやすいかなと思いますけれども。

西原館長 おっしゃる通り、改修の必要な施設が袖ヶ浦市の中でもかなり多くなっておりまして、社会教育施設で言いますと公民館が分館入れて6館、図書館3館、学校施設もありますし、教育委員会の中で優先順位をつけております。まず、教育委員会の中での優先順位があり、それを踏まえて市の中でどうしていこうかというところで考えますので、最初から博物館だけが勝手に考えればいいという段階ではなくなってきているところもあります。ですがなおざりにされて

いるというわけではなく、総体的に管理してくれている部署があるのですけれども、そこでは博物館の大規模改修もしなければいけないよねという言葉は出てきますが、では、いつにしたらいいのと言うと、なかなか定まらないところですよ。決してなおざりにされているわけではありません。

菊池委員 わかりました。

伊藤委員長 今度評価として出てくるのは、別紙のようになるわけですか。

西原館長 そうです。評価の仕方は『袖ヶ浦の教育』で教育委員会がしてきている評価の仕方を拝借して、今まで感覚的な評価だったので、その辺を見直して、極力数値化して目で見えてわかるもの、博物館経営として目で見えてわかるものとして変えていこうと、その辺を踏まえて今回提案させていただいています。

伊藤委員長 今のをベースにして、評価の仕方をしっかりやっていくということでしょうか。

西原館長 はい。

篠原委員 1つだけ、文章表現が気になったので。11ページの(3)－2。あるべき姿は博物館側の姿ですよ。文末が「気づきがある」となっていますが、これは見た方の姿、参加した側の姿なので、文末は、「展示から新たな発見や気づきがあるような展示になっている」という「こういう展示になっています」という表現でなくてはならないと思います。

事務局 そうですね。ありがとうございます。その通りだと思います。

西原館長 統合したことによって、評価する方がされる方の立場になってしまっていました。それは修正します。他にもそういう所があるかもしれないので、またご意見いただければと思います。また修正案を出しますので、もう少し中身を確認していきたいと思います。

伊藤委員長 続きまして、その他は何かありますか。

事務局 ありません。

伊藤委員長 では、協議事項で、アクアラインなるほど館の今後の活用について、事務局から説明をお願いします。

事務局 資料に基づき説明

西原館長 今、お話しした件なのですが、なるほど館を閉館する前提でお話したわけではありません。本日お配りした別冊資料の一番最後ですが、そちらを見ますとアクアラインなるほど館の入館者が出ています。下のグラフですが、当初できた時は年間これくらい入っていたんですけども、近年は入館者の内訳を見ますと、市民の方の割合は非常に少ない、状況がずっと続いております。1枚めくっていただきますと折れ線グラフがあります。この折れ線グラフは、博物館協議会でもアクアラインなるほど館の活用について、協議していただいておりますが、その中でもロビー展を行っていくというご意見があったと伺っております。そういうわけで、これまで行ってきたんですけども、現実的に回数を増やしても、入館者数の増に反映されていないというところもこのグラフからわかると思います。というところを踏まえまして、アクアラインなるほど館のあり方自体も見直す時期が来ているのではないかと、平成10年にできておりますので、もう20年以上たっております。展示自体、できたままと言いますか、もともと南袖に、周知用に企業が使っていた模型を、そのまま展示しているので、現実的に今あるものと違っています。それはそれで価値があるのですけれども、なるほど館単体で見せるものかどうかという所も考えなければいけないかもしれません。そういうことで今回提案した理由としては、そろそろこういったことも考えていかなければならないので、どういったご意見があるかというのを伺いたく、提案いたしました。

伊藤委員長 難しいですね。1万人近くは来ていたんですよね。

西原館長 そうですね。

伊藤委員長 企画展、ソデフローラだとか、写真展だとか、風の会の展示だとか、それなりに人が入ってたんですけど、常時受付がないことで、来館者を入れる場合はどうするのかという課題もありますね。

西原館長 市制施行30周年を記念して、なるほど館もほぼ市と並行して歩いてきましたので、それに合わせてなるほど館を使って展示を行います。基本的には中の換気設備は改善されていないので、そこでどうやって開けるかはこれから検討していくんですけども、受付は置いて、一度に入る人数を制限していこうかなと、30分に何人とか設定をして、受付をしていこうかと考えています。

伊藤委員長 せっかくある設備なので、手前の部屋で展示をするのであれば、入り口を開けておけば、奥に入らなければ問題ないのではないかな。

西原館長 そういう考え方もあるかと思います。施設としては丈夫なので。

加藤委員 他の博物館に伺って、友の会とかボランティアをしている人たちの建物があつたのがとても印象的でした。道具を入れられたり、この博物館にも市民学芸員とか友の会、山野のボランティアや、上総掘りの方たちもいて、なるほど館をその人たちがうまく使えるようなスペースがあるといいと思います。なるほど館の奥の方にパソコンが置いてありましたよね。いつも来ている子がいたのですが。それから、中の方の映像が見られる部屋、映像の奥の方にもスペースがあつたりします。そういう場所をうまくボランティアに使ってもらう、展示ではなくて道具や物を置く、そこで「こんなことをしています」と少し紹介してもらって、4つの団体の活動が見える場所、時々ロビー展で展示して下さるんですけど、そういう場所があってもいいかなと思いました。加曽利でしたか、大きな建物1つがボランティアのものでした。

西原館長 協議会で行った加曽利ですね。プレハブの大きなものがあつた。

加藤委員 そこまでは無理でも、そういう場所があるといいと思いました。

伊藤委員長 閉館と言うのは難しいですね。奥の部屋の換気を直すのは費用がかかるのでできないとしても、入り口の企画展はできると思います。扉は開けておくとか。

武田副委員長 貝塚の貝など、発掘が進んでいるのかわからないですけども、そういった出土品が今後も出てくると思うんですよ。山野貝塚の出土品を展示する場所としても活用できるかなと思います。山野貝塚の発掘調査は、今はどれくらい進んでいるのですか。

西原館長 今年も整備に向けた調査をやっています。少しずつですが出土品は増えています。そういった展示物への活用も考えるべきとは思いますが、展示物を監視する人間が必要になってきますので、人の配置をどうするかというのも考えなければなりません。

伊藤委員長 だいたい意見が出たところですが、閉館というのは寂しい。なるべく展示等で活用していただきたい。

伊藤委員長 続きまして、その他と言うことで、何かありますか。

事務局 第1回の協議会の際に欠席された唐木委員から意見書をいただいていたが、披露することができなかったのも、今回紹介したいと思います。唐木委員からお願いします。

唐木委員 1つめは中島敏明展について、博物館の資料は古いものが多いと思うが、一つのものにこだわらないで、時には美術とかの展示もよいと思う。ここが文化の発信基地と言う感じで使ってもらえればと思いました。2つ目は地域の連携について、各地域にはいろいろな催し物や行事があるのですが、そういった情報も博物館としては掴んでいると思うのですが、実際にどういうふう運営されているのかなとか、そういうものを掴むためにも、話し合いに博物館が参加できたら、博物館としても地域の情報が掴めていいのではないかと、そのためにも旧進藤家等を使って、交流したらどうかと思いました。3つめは学校教育、以前袖ヶ浦高校で授業を行ったことを新聞で読んだのですが、博物館としてもかなり積極的な活動をされていると思うんですけども、「博物館でもこうい

うことをやっています」というPRをもっと博物館でも積極的にやったらどうかと思ひまして提案しました。

事務局 ありがとうございます。

西原館長 1つめですが、袖ヶ浦市の総合計画という全体の目標があるのですけれども、そちらの方でも文化振興について掲げております。文化振興のすそ野を広げるために、通常は生涯学習課の方が主体となっていて行っているのですけれども、昨年度から今年度にかけて、中島敏明展をやらせていただきました。予算との兼ね合いもあり毎年というわけにはいかないですが、可能なら今後もそのような展示を実施したいと思っています。2つ目ですが、旧進藤家住宅の活用については課題としてずっと考えていることなので、住民との交流をはかるというのも今後の新たな活用として参考にさせていただきたいと思いますが現状では難しいところもあります。3つ目の活動についてのアピールなのですが、これはおっしゃる通りで、なかなか満足にできていないという現状がありまして、努力したいと思っています。

伊藤委員長 では、次に報告（1）上総掘り講座の現状について、事務局から説明をお願いします。

西原館長 資料に基づき説明

伊藤委員長 続きまして、報告（2）郷土博物館の上半期の活動報告について、事務局から説明をお願いします。

事務局 資料に基づき説明

伊藤委員長 続きまして、報告（3）そではく体験会の報告について、事務局から説明をお願いします。

事務局 資料に基づき説明

伊藤委員長 3件の報告について、何か質問はありますか。よろしいですか。
それでは、その他で何かありましたら、お願いします。

事務局 第37回袖ヶ浦市生涯学習推進大会実行委員の選出について、博物館協議会宛に依頼があり、本来であればこの場でお話すべきところでしたが、推薦書の提出締切が11月5日であったため、委員長等と相談し、唐木委員にお引き受けいただきましたので、報告します。

伊藤委員長 よろしくお願いします。

伊藤委員長 他に、その他はよろしいですか。
では、これにて第2回博物館協議会終了いたします。

閉会

令和3年度第2回袖ヶ浦市郷土博物館協議会

会議次第

日 時 令和3年11月17日（水）
午前10時から11時20分
場 所 郷土博物館 研修室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 教育長あいさつ

4 議 題

（1）「郷土博物館の使命－そではく30の展望－」の見直しについて（15分）
【質疑15分】

（2）その他

5 協議事項

（1）アクアラインなるほど館の今後の活用について（15分）【質疑15分】

（2）その他

6 報 告

（1）上総掘り講座の現状について（10分）【質疑5分】

（2）郷土博物館の上半期の活動報告について（5分）【質疑5分】

（3）そではく体験会の報告について（5分）【質疑5分】

7 閉 会

会議終了後は、特別展「かつて見た袖ヶ浦の海」を見学します。（30分程度）

議題（１）「郷土博物館の使命－そではく３０の展望－」の見直しについて

１ 提案理由

平成２０年６月に博物館法が改正され、博物館法第９条に博物館運営に関する評価の努力義務規定が設けられている。袖ヶ浦市郷土博物館では、平成２４年７月に開館３０周年の節目にあたり『袖ヶ浦市郷土博物館の使命－そではく３０の展望－』を策定した。これは４つの使命と、使命を遂行するための取り組みである６つの活動目標、博物館が目指す３０の「あるべき姿」で構成され、以後、これに基づいて郷土博物館の運営について点検と評価を実施してきた。

しかしながら、策定後８年が経過しているが、これまで大きな見直しを行っておらず、現状と乖離した項目や見直しが必要な項目もあることから、見直しを図ろうとするものである。

なお、見直しにあたっては、令和２年度第２回袖ヶ浦市郷土博物館協議会において、変更案（別冊参考資料３）を提示し、見直しポイントなどについてご検討いただいたところであるが、次の段階として、日本博物館協会が策定した博物館自己点検システムを参照とした見直しを追加するものである。自己点検システムは、日本博物館協会が平成１７年から各博物館が事業評価を行う上での拠り所となる評価基準（ベンチマーク）の開発に取り組み、その成果として平成２０年に策定したもので、８領域１５６項目の点検項目からなるものである。

始めに、「そではく３０の展望」にこの８領域が網羅されているかを検証し、PDCAサイクルが機能しているかを確認する中で「３０の展望」の内容を見直して、より効果的で明確な点検・評価基準の作成を目指すため、新たな見直し案について委員に意見を求めるものである。

２ 郷土博物館の使命－そではく３０の展望－の構成（現行）※別冊参考資料１参照

（１）使命

- ①地域の文化的な個性を探り、継承し、その発信拠点となります。
- ②市民の学習の場・知的交流の場となって、地域の向上に貢献します。
- ③市民の生涯学習の拠点としての安心・安全な施設を提供します。
- ④博物館としての独自性を追求します。

（２）活動目標

- ①地域の資（史）料を守る－資（史）料の収集と保管－
- ②地域を探り、発信する－調査研究の深化と革新－
- ③学習・知的交流の拠点になる－展示更新と市民参画－
- ④地域のつながりを活かす－地域連携の展開－

⑤安心・安全な施設にする－改善と維持管理－

⑥袖博らしさを追求する－マネジメント力の強化－

(3)そではく30の展望

郷土博物館が目指す30の「あるべき姿」＝具体的なアクションプラン

※別冊参考資料2（令和2年度「そではく30の展望」の点検と評価）参照

3 「そではく30の展望」の評価

(1)PDCAサイクルの確認

※別冊参考資料2（令和2年度「そではく30の展望」の点検と評価）参照

P（アクションプラン・評価指標）「あるべき姿」

D（事業活動・実践）年度の取り組み

※取り組み内容の分析

C（評価）成果・効果、評価

※取り組みの成果と効果の評価

令和2年度評価結果

◎目的（あるべき姿）に限りなく到達した項目 13

○目的にある程度達した項目 14

△取り組んだが目的に達しなかった項目 3

×取り組まなかった項目 0

A（見直し）課題・今後の対応

※評価に基づき課題を抽出し、課題に応じた今後の対応を示す。

(2)「そではく30の展望」の総括

活動目標(1)

・平成29年度の△評価項目は、課題の抽出・今後の対応により改善され、あるべき姿に達したと評価できる。

・「あるべき姿」の3項目は、いずれも日常の資料の保存管理についてであり、令和2年度にはすべて◎となり、おおむね良好な対応と評価ができる。

・活動目標(1)「地域の資(史)料を守る－資(史)料の収集と保管－」に「収集」とあるが、あるべき姿に収集についての項目がないことがわかった。

活動目標(2)

・「あるべき姿」4項目のうち「3. 収蔵資料は定期的に総点検され、保存(廃棄)・修復等が適正に行われている。」は、平成29年度は△評価であったが、取り組みが改善されており、活動目標(2)については、良好な評価と言える。

・「2. 収蔵資料に関する情報の追加・修正が恒常的に行われている。」では、恒常

的に行われていないところもあるため、今後も課題点としてあげられる。

- ・活動目標(2)のあるべき姿は、いずれも調査研究に関する項目であり、多くが◎を獲得しているが、他の活動目標に配置されている項目の移動や類似項目の統合など、整理の必要性がある。

- ・活動目標(2)では「地域を探り、発信するー調査研究の深化と革新ー」とあるが、調査研究は継続的に実施しており、その活用の方が必要と考えることから、修正する必要がある。

活動目標(3)

- ・「あるべき姿」が13項目設定され、多岐にわたる活動目標になっているが、これまでの取り組みとしては、◎○評価が多く、総体的な評価としては、良好と言える。

- ・11の「新旧住民」とは何か、「現状の課題となっているか」など、これまでの協議会の検討の中でも指摘も受けており、評価しにくい項目については見なおす必要がある。

- ・「13. 利用者同士が交流できるスペースや装置等が整備され、相互学習や共同で活動できる環境になっている。」では、施設整備面にも関連するが、誰もが自由に利用できるスペースづくりなどに、これらかも取り組み必要がある。

- ・活動目標(3)では「学習・知的交流の拠点にある」ことを掲げていることから、副題に示されている「ー展示更新と市民参画ー」の「市民参画」は(4)地域連携と合わせる方が適切と思われる。

活動目標(4)

- ・「あるべき姿」が5項目設定されているが、総体的な評価はおおむね良好と言える。

- ・活動目標(4)は「地域のつながりを活かすー地域連携の展開ー」を掲げ、地域連携に関する目標であることから、活動目標(3)に掲げていた「市民参画」を本目標に統合し、市民の代表としての市民学芸員・友の会員の活動を評価対象とする項目を取り入れた方が、より現状に即している。

活動目標(5)

- ・「あるべき姿」として2項目設定されているが、「2. バリアフリー・ユニバーサルデザインの理念に基づいて安全・安心で誰にでも優しい施設をめざし、実行できている。」は常に△評価で、改善の必要がある項目として位置づけられるが、施設の老朽化や改修費用の予算措置など、博物館のみの課題ではないことから、設

定内容を変更する必要がある。

- ・危機管理・防災についての項目がないため、追加の必要がある。

活動目標(6)

・「あるべき姿」として3項目設定され、総体的な評価としてはおおむね良好と言えるが、活動目標(6)として掲げる「袖博らしさを追求するーマネジメント力の強化」に曖昧さが感じられる。「あるべき姿」の評価もすべて○が続いており、評価がしにくいものと思われる。項目について整理し、活動目標についても、目標を明確にできるものに修正する必要がある。

そではく30の展望評価結果 (H29年度～R2年度)

活動目標	あるべき姿	H29年度評価	H30年度評価	R元年度評価	R2年度評価
(1) 地域の資(史)料を守る－資(史)料の収集と保管－	1.収蔵するすべての資(史)料が市民の共有財産として認められ、適正な環境で保存管理されている。	◎	◎	◎	◎
	2.市史編さん事業で収集・管理してきた史料群が適正に管理され、活用できる環境が整っている。	○	○	○	◎
	3.収蔵資料は定期的に総点検され、保存(廃棄)・修復等が適正に行われている。	△	○	○	◎
(2) 地域を探り、発信する－調査研究の深化と革新－	1.市民のニーズを捉え、これにマッチした中長期的な調査研究テーマが設定され、調査研究が継続的に行われている。	○	○	◎	◎
	2.収蔵資料に関する情報の追加・修正が恒常的に行われている。	△	○	○	○
	3.地域資料に関する情報が集積する場になっている。	◎	◎	◎	◎
	4.調査研究の成果が公開されている。	◎	◎	◎	◎
(3) 学習・知的交流の拠点になる－展示更新と市民参画－	1.市民の意向に基づいた常設展示の更新計画があり、調査研究の成果が反映された展示となっている。	◎	◎	◎	◎
	2.利用者が身近なものとして資料を捉えることができ、新たな発見や気づきがあるような展示になっている。	◎	◎	◎	◎
	3.展示資料の選定と展示構成の意図がわかりやすく、利用者に対して双方向性の高い展示になっている。	○	○	◎	◎
	4.企画展や特別展が計画的に実施され、市民の学習意欲に応えることや地域資料の有効活用が図られている。	◎	◎	◎	◎
	5.市民が自らの意志で参画し、常設展の更新や企画展などが開催されている	○	○	○	○
	6.情報機器が積極的に導入され、すべての利用者がさまざまな手段で情報を共有できるようになっている。	◎	◎	◎	◎

活動目標	あるべき姿	H29 年 度評価	H30 年度 評価	R 元年度 評価	R 2 年度評価
(3)学習・知 的交流の拠 点になる —展示更新 と市民参画—	7.博物館に縁遠かった人びとを呼び込み、利用者層・数を拡大する工夫がこらされている。	◎	◎	◎	○
	8.市民の知りたいこと、学びたいことをリサーチし、ニーズに応える形で講習・講座等が実施されている。	△	△	○	○
	9.さまざまなメディアを活用し、博物館活動のPRが継続されている。	◎	◎	◎	◎
	10.図書資料の活用が図られるとともに、コピーサービスなどの体制がつくられ機能している。	△	△	△	○
	11.新旧住民の交流の場となり、文化の掘り起こしが行えるような工夫がある。	○	○	○	△
	12.市民が博物館活動に参画できる体制が構築され、博物館運営の原動力となっている。	◎	○	○	○
	13.利用者同士が交流できるスペースや装置等が整備され、相互学習や共同で活動できる環境になっている。	○	○	○	△
(4)地域の つながりを 活かす— 地域連携の 展開—	1.袖ヶ浦のことなら何でもわかる博物館になっている。	○	○	○	○
	2.博物館が学びの拠点となって地域がつながるシステムが構築されている。	◎	◎	○	◎
	3.地域連携によって新たな価値が発見・創造され、その成果が発信されている。	○	○	○	○
	4.博学連携が効果的に機能し、子どもたちの学びがサポートされている。	◎	◎	◎	◎
	5.他の社会教育機関・博物館等とのつながりや地域の企業、NPO等との交流がより強化されて、市民の学び・交流がサポートされている。	○	◎	◎	○
(5)安心・安全な施設にする—改善と維持管理—	1.管理施設の現状が把握されていて、計画的なメンテナンス、修繕、改修等の計画が立てられている。	○	○	○	○
	2.バリアフリー・ユニバーサルデザインの理念に基づいて安全・安心で誰にも優しい施設をめざし、実行できている。	△	△	△	△
(6)袖博らしさを追求する—マネジメント力の強化—	1.周辺の施設等や大学・研究機関等と連携し、市民の憩いの場である袖ヶ浦公園を生かした魅力的な事業展開が図られている。	○	○	○	○
	2.博物館活動と市民活動が一体となった活動を推進し、周辺の遺跡や歴史遺産の解明や深化に努めるための魅力的な活動が継続されている。	○	○	○	○
	3.市民と共に歩む博物館として認知され、高度な博物館活動を担える新たな研究者や専門家の人材の確保・育成ができています。	○	○	○	○

(3)日本博物館協会「博物館経営・運営指標（ベンチマーク）」との照合

指標 8 領域（標準版では 1 5 6 項目、web 版では 1 1 0 項目）

- | | |
|-----------------|-------------|
| ① 館長・経営責任 | ⇒ 現行なし |
| ② 利用者・市民・地域との関係 | ⇒ 現行 1 1 項目 |
| ③ 展示 | ⇒ 現行 6 項目 |
| ④ 教育普及 | ⇒ 現行 2 項目 |
| ⑤ 学芸員・一般職員 | ⇒ 現行なし |
| ⑥ 調査研究 | ⇒ 現行 6 項目 |
| ⑦ 資料・コレクション | ⇒ 現行 3 項目 |
| ⑧ 施設 | ⇒ 現行 2 項目 |

(4)変更案

「使命」

- ・ 4 項目の使命は、袖ヶ浦市郷土博物館の設置目的を果たすため、引き続き名族する。

「活動目標」

- ・ 活動目標と領域の整合性をはかり、その上でより内容を端的に表せる文言に修正した。
- ・ 領域①⑤をあるべき姿に加える上で、活動目標（7）を追加した。

「あるべき姿」

- ・ 現行の「あるべき姿」について内容と文言を精査し、より現状に即したわかりやすい表現に修正した。
- ・ 現在の博物館活動を評価するにあたり必要な項目や、日本博物館協会の評価基準の 8 領域と照合して不足していた項目について新設した。
- ・ 内容が近い項目について、統合・修正した。
- ・ 活動目標と領域の整合性をはかる中で、より適切な配置になるように項目を移動した。
- ・ 現在の博物館活動では点検・評価できない項目について削除した。

変更内訳

- | | |
|------|--------|
| 継続項目 | 6 項目 |
| 修正項目 | 1 4 項目 |
| 新設項目 | 8 項目 |

移動項目 3項目（うち移動・修正項目 1項目）

統合・修正項目 3項目

統合項目 3項目

削除項目 1項目

変更案の指標8領域

- | | |
|-----------------|--------|
| ① 館長・経営責任 | ⇒ 1項目 |
| ② 利用者・市民・地域との関係 | ⇒ 11項目 |
| ③ 展示 | ⇒ 5項目 |
| ④ 教育普及 | ⇒ 3項目 |
| ⑤ 学芸員・一般職員 | ⇒ 3項目 |
| ⑥ 調査研究 | ⇒ 6項目 |
| ⑦ 資料・コレクション | ⇒ 3項目 |
| ⑧ 施設 | ⇒ 3項目 |

合計35項目⇒『そではく35の展望』案

4 評価の方法

(1)これまでの評価方法

・これまでの評価は、「あるべき姿」の取り組み内容を分析した効果・成果内容により、下記の達成度で評価していた。

・定数的な評価が難しい項目が多いため、主観的な達成度として示していた。

◎目的（あるべき姿）に限りなく到達した項目

○目的にある程度達した項目

△取り組んだが目的に達しなかった項目

×取り組まなかった項目

・総合的な数値評価を示していなかった。客観的な評価ではない。

(2)新たな評価方法

・「あるべき姿」の取り組み項目すべてに年度ごと目標値を設定し、実績値と達成度を示す。

達成度を◎ ○ △ ×の4段階で表示

◎：目標値に対して100%以上の達成率

○：目標値に対して80%以上100%未満の達成率

△：目標値に対して60%以上80%未満の達成率

×：目標値に対して60%未満の達成率

- ・評価の基準については、7つの活動目標単位ごとの目標値に対する達成度を
◎：30点、○：20点、△：10点、×：0点として活動指標ごとの平均値を出
し、A、B、Cの3段階で評価
A：施策の効果が十分に図られている。（24点以上）
B：施策の効果が図られ、一定の成果があった。（24点未満18点以上）
C：施策の効果が十分に図られているとは言えず改善が必要である。
（18点未満）

5 郷土博物館の運営の点検・評価の今後について

令和2年度 第2回袖ヶ浦市郷土博物館協議会にて、「袖ヶ浦市郷土博物館の使命－
そではく30の展望－」の見直しについて提案

令和3年度 第2回袖ヶ浦市郷土博物館協議会にて、「袖ヶ浦市郷土博物館の使命－
そではく30の展望－」の見直しについて、「新『そではくの展望』策定
へ向けた試案」を提案
博物館協議会委員・市民学芸員・博物館友の会員等で、検討・審議

令和4年度 袖ヶ浦市郷土博物館協議会にて、袖ヶ浦市郷土博物館協議会に提案。新
『そではくの展望』策定。
令和5年度（令和4年度の評価）より、新『そではくの展望』を運営の点
検・評価基準として活用。

6 関連法令

① 博物館法（抄）

（運営の状況に関する評価等）

第9条 博物館は、当該博物館の運営の状況について評価を行うとともに、そ
の結果に基づき博物館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めな
ければならない。

（運営の状況に関する情報の提供）

第9条の2 博物館は、当該博物館の事業に関する地域住民その他の関係者の
理解を深めるとともに、これらの者との連携及び協力の推進に資するため、当
該博物館の運営の状況に関する情報を積極的に提供するよう努めなければなら
ない。

② 公立博物館の設置及び運営上の望ましい基準（抄）

（運営の状況に関する点検及び評価等）

第4条 博物館は、基本的運営方針に基づいた運営がなされることを確保し、その事業の水準の向上を図るため、各年度の事業計画の達成状況その他の運営の状況について、自ら点検及び評価を行うよう努めるものとする。

2 博物館は、前項の点検及び評価のほか、当該博物館の運営体制の整備の状況に応じ、博物館協議会の活用その他の方法により、学校教育又は社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者、当該博物館の事業に関して学識経験のある者、当該博物館の利用者、地域住民その他の者による評価を行うよう努めるものとする。

3 博物館は、前二項の点検及び評価の結果に基づき、当該博物館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

4 博物館は、第一項及び第二項の点検及び評価の結果並びに前項の措置の内容について、インターネットその他の高度情報通信ネットワーク（以下「インターネット等」という。）を活用すること等により、積極的に公表するよう努めるものとする。

5 新「そではくの展望」の策定へ向けた試案

現在の「活動目標」	「活動目標」変更案	現在の「あるべき姿」	「領域」	「あるべき姿」変更案	備考	備考	No.
(1)地域の資(史)料を守る－資(史)料の収集と保管－	(1)地域の資料を守る－資料の収集と保管－	1.収蔵するすべての資(史)料が市民の共有財産として認められ、適正な環境で保存管理されている。	⑦資料・コレクション	1. 収蔵するすべての資料が市民の共有財産として認められ、適正な環境で保存管理されている。	継続	⑦資料・コレクション	1
		2.市史編さん事業で収集・管理してきた史料群が適正に管理され、活用できる環境が整っている。	⑦資料・コレクション	2. 市史編さん事業で収集・管理してきた古文書類が適正に管理され、活用できる環境が整っており、修復等が適正に行われている。	統合・修正	⑦資料・コレクション	2
		3.収蔵資料は定期的に総点検され、保存(廃棄)・修復等が適正に行われている。	⑦資料・コレクション	上記(1)－2へ統合	統合		
				3. 地域資料の散逸や棄損を防ぎ、保護するため、積極的に情報を集め、資料の収集にあたっている。	新設	⑦資料・コレクション	3
(2)地域を探り、発信する－調査研究の深化と革新－	(2)地域を探り、発信する－調査研究と成果活用－			1. 袖ヶ浦のことなら何でもわかる博物館になっている。	移動	⑥調査研究	4
		1.市民のニーズを捉え、これにマッチした中長期的な調査研究テーマが設定され、調査研究が継続的に行われている。	⑥調査研究	2. 市民のニーズについて定期的に調査し、これらを反映させた調査研究が継続的に行われている。	修正	⑥調査研究	5
		2.収蔵資料に関する情報の追加・修正が恒常的に行えている。	⑥調査研究	3. 地域資料に関する情報が集積し、収蔵資料に関する情報が常に更新されている。	統合・修正	⑥調査研究	6
		3.地域資料に関する情報が集積する場になっている。	⑥調査研究	(上記(2)－3に統合)	統合		
				4. 地域の自然・環境に関する調査研究が継続的に行われている。	新設	⑥調査研究	7
		4.調査研究の成果が公開されている。	⑥調査研究	5. 調査研究の成果が公開されている。	継続	⑥調査研究	8
				6. 高度な博物館活動を担える新たな研究者や専門家といった人材との交流ができています。	移動・修正	⑥調査研究	9
(3)学習・知的交流の拠点になる－展示更新と市民参画－	(3)学習・知的交流の拠点になる－展示更新と情報発信－	1.市民の意向に基づいた常設展示の更新計画があり、調査研究の成果が反映された展示となっている。	③展示	1. 市民の意向を反映した常設展示の更新計画があり、展示に調査研究の成果が還元されている。	修正	③展示	10
		2.利用者が身近なものとして資料を捉えることができ、新たな発見や気づきがあるような展示になっている。	③展示	下記(3)－2へ統合	統合		
		3.展示資料の選定と展示構成の意図がわかりやすく、利用者に対して双方向性の高い展示になっている。	③展示	2. 展示資料の選定と展示構成の意図がわかりやすく、利用者に対して双方向性の高い展示になっており、展示から新たな発見や気づきがある。	統合・修正	③展示	11
		4.企画展や特別展が計画的に実施され、市民の学習意欲に応えることや地域資料の有効活用が図られている。	③展示	3. 地域資料を有効活用した企画展や特別展が計画的に実施され、市民の学習意欲に応えるものとなっている。	修正	③展示	12
		5.市民が自らの意志で参画し、常設展の更新や企画展などが開催されている。	③展示	4. 常設展の更新や企画展などについても市民が自らの意志で参画している。	修正	③展示	13
		6.情報機器が積極的に導入され、すべての利用者がさまざまな手段で情報を共有できるようになっている。	③展示	5. 情報機器やアプリ等が積極的に導入され、すべての利用者がさまざまな手段で情報を共有できるようになっている。	修正	③展示	14
		7.博物館に縁遠かった人びとを呼び込み、利用者層・数を拡大する工夫がこらされている。	②利用者・市民・地域との関係	6. 未来館者に対し、来館を促す工夫がされている。	修正	②利用者・市民・地域との関係	15
		8.市民の知りたいこと、学びたいことをリサーチし、ニーズに応える形で講習・講座等が実施されている。	④教育普及	7. 講座内容が市民のニーズを反映したものとなっている。	修正	④教育普及	16
		9.さまざまなメディアを活用し、博物館活動のPRが継続されている。	②利用者・市民・地域との関係	8. さまざまなメディアを活用し、博物館活動のPRが継続されている。	継続	②利用者・市民・地域との関係	17
		10.図書資料の活用が図られるとともに、コピーサービスなどの体制がつけられ機能している。	④教育普及	9. 図書室が調べ学習や個人研究に利用され、図書資料の活用が図られている。	修正	④教育普及	18
				10. 利用者からの質問・相談に対応できる体制が整っている。	新設(初)	④教育普及	19

現在の「活動目標」	「活動目標」変更案	現在の「あるべき姿」	「領域」	「あるべき姿」変更案	備考	備考	No.
(3)学習・知的交流の拠点になる ―展示更新と市民参画―	(3)学習・知的交流の拠点になる ―展示更新と情報発信―	11.新旧住民の交流の場となり、文化の掘り起こしがおこなえるような工夫がある。	②利用者・市民・地域との関係	(削除)	削除		20
		12.市民が博物館活動に参画できる体制が構築され、博物館運営の原動力となっている。	②利用者・市民・地域との関係	(4)-1に移動	(移動)		
		13.利用者同士が交流できるスペースや装置等が整備され、相互学習や共同で活動できる環境になっている。	②利用者・市民・地域との関係	11. 利用者同士が交流できるスペースや装置等が整備され、相互学習や共同で活動できる環境になっている。	継続	②利用者・市民・地域との関係	
(4)地域のつながりを活かす ―地域連携の展開―	(4)地域のつながりを活かす ―市民参画と地域連携―	1.袖ヶ浦のことなら何でもわかる博物館になっている。	⑥調査研究	(2)-1に移動	(移動)		21
				1. 市民が博物館活動に参画できる体制が構築され、博物館運営の原動力となっている。	移動	②利用者・市民・地域との関係	
		2.博物館が学びの拠点となって地域とつながるシステムが構築されている。	②利用者・市民・地域との関係	2. 市民学芸員・友の会員を中心に、博物館が学びの拠点となって地域がつながるシステムが構築されている。	修正	②利用者・市民・地域との関係	22
		3.地域連携によって新たな価値が発見・創造され、その成果が発信されている。	②利用者・市民・地域との関係	3. 地域連携によって新たな価値や経済効果が発見・創造され、その成果が発信されている。	修正	②利用者・市民・地域との関係	23
		4.博学連携が効果的に機能し、子どもたちの学びがサポートされている。	②利用者・市民・地域との関係	4. <u>地域の学校と連携し、子どもたちの学びをサポートするとともに、世代間交流が促進されている。</u>	修正	②利用者・市民・地域との関係	24
		5.他の社会教育機関・博物館等とのつながりや地域の企業、NPO等との交流がより強化されて、市民の学び・交流がサポートされている。	②利用者・市民・地域との関係	5. 他の社会教育機関・博物館等とのつながりや地域の企業、NPO等との交流がより強化されて、市民の学び・交流がサポートされている。	継続	②利用者・市民・地域との関係	25
(5)安心・安全な施設にする―改善と維持管理―	(5)安心・安全な施設にする―施設の維持管理と来館者への配慮―	1.管理施設の現状が把握されていて、計画的なメンテナンス、修繕、改修等の計画が立てられている。	⑧施設	1. 管理施設の現状が把握されていて、計画的なメンテナンス、修繕、改修等の計画が立てられて、 <u>施設の維持管理がは</u> かられている。	修正	⑧施設	26
		2.バリアフリー・ユニバーサルデザインの理念に基づいて安全・安心で誰にも優しい施設をめざし、実行できている。	⑧施設	2. <u>包摂的な社会の実現のため、</u> 安全・安心で誰にも優しい施設をめざし、実行できている。	修正	⑧施設	27
				3. 危機管理マニュアルを整備し、防災訓練を実施している。	新設(初)	⑧施設	28
(6)袖博らしさを追求する ―マネジメント力の強化―	(6)博物館の社会的役割を意識する―地域への貢献―	1.周辺の施設等や大学・研究機関等と連携し、市民の憩いの場である袖ヶ浦公園を生かした魅力的な事業展開が図られている。	②利用者・市民・地域との関係	1. 周辺の施設等や大学・研究機関等と連携し、市民の憩いの場であり、 <u>観光拠点でもある</u> 袖ヶ浦公園を生かした魅力的な事業展開が図られている。	修正	②利用者・市民・地域との関係	29
		2.博物館活動と市民活動が一体となった活動を推進し、周辺の遺跡や歴史遺産の解明や深化に努めるための魅力的な活動が継続されている。	②利用者・市民・地域との関係	2. 博物館活動と市民活動が一体となった活動を推進し、周辺の遺跡や歴史遺産の解明や深化に努めるためにボランティアを育成し、 <u>魅力的な活動が継続</u> されている。	修正	②利用者・市民・地域との関係	30
		3.市民と共に歩む博物館として認知され、高度な博物館活動を担える新たな研究者や専門家の人材の確保・育成ができている。	⑥調査研究	(2)-6へ移動	(移動)		31
				3. <u>収蔵資料や情報・人材を活用し、市民の健康や福祉の向上についても貢献する。</u>	新設	②利用者・市民・地域との関係	
	(7)博物館職員の個性を生かし、能力を伸ばす―自己研鑽と研修参加―			1. <u>館長は、研修等により最新の情報を収集し、博物館の振興と運営改善に努めている。</u>	新設(初)	①館長・経営責任	32
				2. <u>館の特性と需要に見合った専門性を備えた学芸員を適正に配置し、研修等による資質向上に努めている。</u>	新設(初)	⑤学芸員・一般職員	33
				3. <u>他機関の学芸員・研究者と交流し研鑽を積む機会や、日頃の研究成果を発表する場が与えられている。</u>	新設(初)	⑤学芸員・一般職員	34
				4. <u>館の業務が適切に行われるように、学芸員以外の職員を配置し、研修等による資質向上に努めている。</u>	新設(初)	⑤学芸員・一般職員	35

※下線は、修正・追加部分。新設（初）は、昨年度の提案にはなかった項目

協議事項（１） アクアラインなるほど館の今後の活用について

１．提案理由

アクアラインなるほど館は、平成１０年の開館以来、市内外からの来館者に親しまれてきたが、開館から２０年以上が経過した建物と展示物は老朽化が著しく、またアクアラインに特化した展示施設であるため、展示更新が難しいため、近年ではロビー展示を開催することでリピーターを確保してきた。

近年アクアラインなるほど館は、受付職員の配置日数を段階的に削減が進められ、常時配置が難しい状況にある。また、令和２年３月より、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための休館が続いており、施設としての存在感が薄れてきている状況である。しかし、現在、アクアラインなるほど館に展示されているアクアライン建設関係の資料は、２０世紀最大のプロジェクトの記録として後世に残し伝えるべき貴重な歴史の遺産であり、さらなる活用を検討する必要もあると考える。

以上により、アクアラインなるほど館がより魅力ある展開をするため、新たな活用方法について、方向性として案を提示し、意見を伺い、今後の参考にしたい。

なお、当面の間は、新型コロナウイルス感染症対策として常時開館はせず、予約・申込等による開館を継続していく。

２．次世代の活用案

案１ アクアラインと海の展示館

袖ヶ浦の海では、かつては海苔養殖をはじめ漁業が盛んに行われていたが、平成９年の博物館リニューアルにより、漁業に関する展示は、常設から姿を消している。

今回、特別展の調査研究により、漁業を行っていたころの資料が収集・分析され、また、かつて漁業を携わった人々からも多くの注目を集めており、展示を契機として新たな情報も集まっている。この成果を常設展示に還元したいが本館では場所が取れないため、なるほど館を活用し、アクアラインも東京湾をめぐる歴史の一環として捉え、海をテーマとした総合的な展示施設とする。なるほど館に現在あるパネルは撤去し、新たに内容を集約したパネルを作成するが、模型等はそのまま展示に使用する等、アクアラインなるほど館の機能も大きく残す。

案２ 見える収蔵庫と市民ギャラリー

調査によって増える埋蔵文化財や大型民具の収蔵場所が常に不足しているが、新たな収蔵庫の設置等は、困難な状況にある。

そこで、アクアラインなるほど館の奥の展示室を収蔵庫として活用する。収蔵庫は、中が見えるように窓付きの扉を設置するなど、収蔵庫展示の手法案も考えられるが、設置費用を要する。手前のロビーは、これまで博物館が実施してきたようなロビー展示の開催や、市民ギャラリーとして活用できる空間とする。また、ロビーは、市民学芸員や山野貝塚ボランティアが利用できるボランティアステーションとしての活用も考え、利用状況や利用者の要望

を考慮し、新たな機能を検討していく。

案3 現状維持

現状のとおり「アクアラインなるほど館」として、アクアライン建設時の資料を展示する施設の機能は維持したまま、受付職員は置かず、通常は施錠し、見学希望者があった場合のみ職員が開館して対応する。

また、これまで通り、ロビー展の会場として利用し、市民学芸員・友の会の利用を促進する。

案4 上総掘り技術伝承研究会の活動拠点と展示施設

上総掘り技術伝承研究会の活動拠点の場とする。ロビーは、上総掘り技術の講習会の会場や作業場としての利用、奥の展示室は、上総掘りの常設展示室として利用が可能であるが、照明の改修工事が必要となる。

案5 閉館

展示資料は本館等に移設するなどし、展示施設としては活用しない。建物は、そのまま収蔵スペースとして活用するか、解体・撤去する。

報告（１）上総掘り講座の現状について

1 要旨及び経緯

重要無形民俗文化財「上総掘りの技術」は、小櫃川・小糸川流域で誕生し、明治から昭和初期まで主に灌漑用水を得る優れた掘削法として、全国各地で活用された。郷土博物館では上総掘りの技術を後世に残すため、竹の切り出しから道具の製作、足場組みといった技術を映像として記録するとともに、体験講座も開催する。体験講座では、道具作りから足場の組み方など、一から上総掘りの技術を学ぶことができる。

3 日 時 別表

4 対 象 高校生以上で8回以上出席できる方・記録映像の出演を了承できる方

5 定 員 5名（申込多数の場合は抽選）

6 参加費 資料代

7 講 師 上総掘り技術伝承研究会

8 その他 国庫補助事業として、4か年計画で実施（映像記録撮影は令和3～5年度の3か年計画）

令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
【用具の新調】			
【用具の修理】			
【教育普及活動】 パンフレットの作成 模型製作	【教育普及活動】 講座開催	【教育普及活動】 講座開催	【教育普及活動】 シンポジウム開催 広報用記録映像編集・発行
		【伝承活動】 伝承用印刷物の作成 （原稿執筆）	【伝承活動】 伝承用印刷物の作成（編集・刊行）
	【記録映像作成】 Ⅰ アシバ用具の作成 取材・撮影・編集・ 発行 制作検討委員会会議	【記録映像作成】 Ⅱ アシバ組み立て 取材・撮影・編集・ 発行 制作検討委員会会議	【記録映像作成】 Ⅲ 掘削・メンテナンス 取材・撮影・編集・ 発行 制作検討委員会会議

別表 令和3年度 上総掘り体験講座日程表

	日 時	テーマ	会場
第1回	10月3日(土) 13:30～15:00	座学:上総掘りの技術 と歴史	郷土博物館 研修室
第2回	10月17日(日) 10:00～15:00	コシタ作り	郷土博物館 研修室
第3回	10月31日(日) 10:00～15:30	クサビ作り	郷土博物館 研修室
第4回	11月7日(日) 9:00～12:00	竹の採取	市内
第5回	11月21日(日) 10:00～15:00	竹ヒゴ作り	郷土博物館 敷地内
第6回	11月28日(日) 10:00～16:00	足場の組み方	郷土博物館 敷地内
第7回	12月5日(日) 10:00～15:00	竹ヒゴの継ぎ方 (割り継ぎ法)	郷土博物館 敷地内
第8回	12月19日(日) 10:00～15:00	上総掘りゆかりの地 見学	袖ヶ浦、近隣市内
第9回	1月8日(土) 13:00～15:00	掘削体験①	郷土博物館 敷地内
第10回	1月22日(土) 13:00～15:00	掘削体験②	郷土博物館 敷地内

報告（２）郷土博物館の上半期の活動報告について

１ 展示更新推進事業

- （１）袖ヶ浦の美術 中島敏明展－画業 50 年の軌跡「elegy と慈愛」－
（令和２年度継続事業）
会 期 令和３年３月２３日～４月１８日（２３日間）（4/1～ １５日間）
入館者 ３，６６３人（4/1～ ２，１６９人）
- （２）企画展Ⅰ「病と医療」
会 期 令和３年５月１日～７月１８日（６８日間）
入館者 ５，３０４人
- （３）ロビー展示「祝！世界文化遺産への登録勧告 北海道・北東北の縄文遺跡群
－特別史跡 三内丸山遺跡時代の袖ヶ浦－」
会 期 令和３年６月１２日～９月３０日（９４日間）
入館者 ５，１７３人
- （４）ロビー展示「蔵波城跡御城印発行記念 蔵波城・久保田城と戦国時代の江戸湾」
会 期 令和３年８月１日～１０月３１日（７８日間）
入館者 ５，１５６人

２ 教育普及事業

（１）袖ヶ浦学

第１５９回 企画展Ⅰ関連講座

「近代における千葉県と疫病 ー千葉県文書館の企画展からー」

講 師 豊川 公裕 氏（千葉県文書館）

期 日 ６月１２日（土） 会 場 根形公民館視聴覚室

参加者 ４５人

第１６０回 袖ヶ浦市史研究第 20 号刊行記念

「古墳時代前期首長墓の分布より見た君津地方の地域性」

講 師 酒巻 忠史 氏（木更津市教育委員会文化課職員）

期 日 ８月２８日（土） 会 場 根形公民館視聴覚室

参加者 ３１人

（２）初歩から始める大人のための縄文講座 縄文時代を知ろう！PartⅢ

第１回 縄文時代ってどんな時代

講 師 上守 秀明 氏（千葉県教育振興財団職員）

期 日 ８月２１日（土） 会 場 平岡公民館視聴覚室

参加者 １３人

第２回 そでがうらの縄文時代

講 師 西原 崇浩（袖ヶ浦市郷土博物館館長）

期 日 ９月４日（土） 会 場 根形公民館視聴覚室

参加者 18人

(3) 夏休みジュニア学芸員体験「上池いきもの調査隊！」

期 日 7月31日(土)(博物館実習の一環として実施)

場 所 袖ヶ浦公園アスレチック広場周辺の水路

参加者 16人

3 博学連携事業

(1) 校外学習支援

小学校6年生体験学習 6校 394人

(奈良輪小 67人・中川小 44人・昭和小 108人・根形小 47人・平岡小 36人・長浦小 92人)

(2) アウトリーチ

小学校6年生 2校 285人

(蔵波小 177人・昭和小108人)

中学校1年生「山野貝塚について」1校

(根形中 52人)

高等学校 「学校周辺の史跡等について」1校 174人

(袖ヶ浦高校情報処理科1年 42人・袖ヶ浦高校普通科2年 132人)

4 市民学芸員協働事業

(1) 市民学芸員養成講座

全11回の内、9月30日までに6回実施 講座生6人

(2) 市民学芸員企画展ワーキンググループ

令和4年度企画展「富士山」の企画・調査・実施のためのワーキンググループ

9月30日までに、ミーティングを3回実施

5 地域資料管理活用事業

館蔵資料(旧奈良輪漁協文書)保存修復 35点実施

6 施設管理事業

研修室屋上防水改修工事

7 その他

博物館実習

7月27日(火)～8月6日(金)のうち10日間実施

実習生 3名

報告（３）そではく体験会の報告について

- 1 期日 10月9日（土）
- 2 会場 袖ヶ浦市郷土博物館正面広場、研修室、学習広場
- 3 概要 例年はミュージアム・フェスティバルと題し、市民や学生の協力により盛大に行われているが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響により、規模を縮小させ、そではく体験会として実施した。各体験イベントは申込制とし、来場者全員の氏名と滞在時間を記録するといった対応を行った。
- 4 催し物
古代人の技術に挑戦（勾玉づくり・貝輪づくり）・たたき染め・ミニ袖舄販売・博物館で学ぼう【パネル展示（友の会本部、土器づくりの会、古文書いろはの会、上総掘り技術伝承研究会））・特別展展示解説会
- 5 入場者数 238人（参考 R1：3,749人、H30：4,198人 H29：3,221人 H28：2,211人）
体験イベント参加者 勾玉づくり 52人（事前申し込み40人、当日受付12人）
貝輪づくり 27人（事前申し込み5人、当日受付22人）
たたき染め 47人（事前申し込み14人、当日受付33人）
ブレスレットづくり 27人（事前申し込み12人、当日受付15人）
合計 153人
- 6 イベントの様子



勾玉づくり



貝輪づくり



ブレスレットづくり



たたき染め体験